



# びすけっと

242号—2023年4月—

埼玉県立小児医療センター

血液・腫瘍科

親の会 びすけっと

もっとみなさんとつながれるように…

Instagram始めました！

[https://www.instagram.com/biscuit\\_oyanokai/](https://www.instagram.com/biscuit_oyanokai/)



## 小児がん対策国民会議主催「学び会おう！小児がんの子どもたちへのよりよい教育を目指して～第4期がん対策推進基本計画策定に向けた各団体の要望書をもとに～」

1月9日（月）にオンラインで開催された学習会に参加しました。3年前新型コロナウイルスの感染が広がってから、制約のある状況の中でどのように教育を実施していくかが模索されてきました。小児がんは治療中と治療後で物理的・身体的な状況が頻繁に変化することもあるため、教育の機会を保障するにはより難しさがあるように思います。

第一部の講演「小児がん治療の進歩と教育」では、石田也寸志先生（愛媛県立中央病院 小児医療センター長 患者支援室長）が小児がん治療の進歩の流れをお話してくださいました。遺伝子レベルでがんの特徴を診断し、それに合わせたきめ細かくかつできるだけ副作用の少ない治療法の研究・開発がこの半世紀ほどの間に行われてきたことに、改めて驚きました。一方で保険診療の仕組みなども関係して入院日数が短期化し学籍の移動に問題が出てくる場合や、難治例小児がんの治療が一部の病院に集約化されることによって居住地から遠くなってしまふなどの問題もあるようです。鍵になるのは利用できる教育制度を熟知したコーディネーターの存在だということです。

第二部では、小児がん治療や病弱教育に関わる各団体から要望書の内容を元にお話がありました。病院や学校の関係者の努力によって入院中、退院後に切れ目のない教育を実施できている事例もあるというお話でしたが、現場の方の力量や学校の種別によって対応に違いが出てしまうことがあり、どの地域・医療機関であっても等しく教育が受けられる環境整備が必要ということでした。ここでも、医療と教育の連携を行う医教連携コーディネーターの存在が大切であると思いました。また、同じような境遇の仲間と共に学習できることは心理的にも大きな支えになるため特別支援学校高等部の設置や院内学級の設置を広げること、自宅療養中の訪問教育の充実などニーズによって多様な教育環境の整備も要望していくということでした。院内学級によって精神的に支えられたという当事者の声の紹介もありました。友達と関わり学ぶということが、治療中の子どもたちに「幸せ」と思えるほどの力を与えていることが伝わってきました。そして、地域の学校に戻ってからも病気の子どもの深い理解に基づいた合理的配慮による教育保障を要望するというお話でした。

第三部は、質問への回答とディスカッションでした。受験についても対応できている事例があるということで、諦めずに相談してみることが大切で、ここでもそれぞれの機関と交渉できるコーディネーターの存在が鍵ではないかと思いました。（柳戸）

小児がん対策国民会議 <https://nccc-j.com/>

小児がん対策国民会議→



次回のびすけっとは、**5/9(火)11:00～**  
相談室B(2F 総合受付奥)

- ※びすけっとの参加のためだけに病院に来られた場合、
- ・駐車料金は一般料金になりますので、病院外の駐車場をご利用することをおすすめします。
- ・入館時の健康チェックシートは、外来・面会用ではなく、職員専用通路内にある来客・業者用をご使用ください。

※変更の場合があるため、  
来る前にインスタや  
LINEで確認してね。

びすけっと連絡先：代表 柳戸 民子  
〒350-2224 鶴ヶ島市町屋112-5  
TEL 049-271-4708（留守電）  
e-mail [yanagido@t.zaq.jp](mailto:yanagido@t.zaq.jp)

柳戸 LINE、QRコード  
ラインでのご連絡もOK!

